平成３１年度地方創生推進交付金事業に関する効果検証結果（R2.7.17外部組織による検証）

| No. | 交付金種別 | 対象事業名 | 交付金を活用して実施した詳細事業 | 事業の効果に対するコメント | 事業見直しの必要性 | 実績に対するコメント | 数値目標に対するコメント | 今後の事業実施について |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 地方創生推進交付金 | 奥能登国際芸術祭を活用した地域再生モデル構築事業 | ■第2回奥能登国際芸術祭開催準備事業<br>事業費：29,000千円（実績29,000千円）<br>概要：第2回芸術祭開催準備に係る事業を実施<br>実施主体：奥能登国際芸術祭実行委員会<br>支出方法：負担 | ・地域経済に大きく寄与している事業だと思います。 | 見直しが必要2<br>・AIやIoTを活用した運営管理、多言語対応サポーターの養成。<br>・サポーターにITエンジニアらの積極的な組み入れ。<br><br>・これまでの成果とコロナ対策を鑑み、継続・改善など事業の見直しを行う。<br>・コロナ対応の運営方法、集客方法の見直しなど。<br><br>見直しは不要2 | ・交流人口（観光入込客数）は、珠洲市以外の要因での変動が大きい。 | ・交流人口数、滞在人口数は、イベント開催の有無により大きく左右されることから、経済活動を示す数値などの指標を設定する必要があると思います。<br><br>・滞在人口に関しては、芸術祭開催年とそれ以外の年の差が必然的に大きくなる。滞在人口の対象者を再検討しても良い。 | ・年を重ねるごとに市民の認知度合い、参加度合いが増加。地域において、事業の効果が出てきているように思います。<br><br>・勉強会に参加された方からの有用な意見が寄せられているのであれば、今後の事業運営の参考としてください。<br>・「宿泊施設ガイドブック」が一般に広く配布するのであれば、編集制作の主体のクレジットは明記された方がよろしいと思います。<br><br>・事務局からの説明を聞いて、5つの対象事業がしっかり行われているとの印象です。国際芸術祭をいかに地方創生に活かすかという意欲も感じます。ただ、もうワンランク上のステップが必要です。先に述べたAIやIoTを活用した運営管理です。また、空き家ホテル開発の改訂ガイドブックには、是非コワーキングスペースがある民宿も盛り込んでください。<br><br>・奥能登国際芸術祭を契機に、既存施設の活用や空き家ホテルの開発など意欲的な事業である。今年度の芸術祭は延期となったが、芸術祭をテコとした様々な事業を進めてほしい。 |
| 2 | | | ■アート作品及びサポーター組織の運営管理<br>事業費：8,000千円（実績8,000千円）<br>概要：アート作品及びサポーター組織の運営管理<br>実施主体：奥能登国際芸術祭実行委員会<br>支出方法：負担 | | | | | |
| 3 | | | ■滞在交流施設日置運営管理業務<br>事業費：3,571千円（実績3,571千円）<br>概要：遊休施設を活用した滞在交流施設日置の運営管理<br>実施主体：珠洲市<br>支出方法：委託 | | | | | |
| 5 | | | ■珠洲市空き家ホテル開発プロジェクト<br>事業費：2,860千円（実績2,860千円）<br>概要：事業化に向けた具体的な取組を実施し、宿泊事業の本格的な運営開始を目指す<br>実施主体：珠洲市<br>支出方法：委託 | | | | | |
| 6 | | | ■関連アートプログラムの開催<br>事業費：4,807千円（実績4,807千円）<br>概要：芸術祭開催後の常設展示を活かしたイベントや子ども向けワークショップ等、芸術祭に関連するアートプログラムを実施<br>実施主体：珠洲市<br>支出方法：委託 | ・「スズ弁」など食に関する関連アートプログラムは面白い。 | | | | |

平成３１年度地方創生推進交付金事業に関する効果検証結果（R2.7.17外部組織による検証）

| No. | 交付金種別 | 対象事業名 | 交付金を活用して実施した詳細事業 | 事業の効果に対するコメント | 事業見直しの必要性 | 実績に対するコメント | 数値目標に対するコメント | 今後の事業実施について |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 地方創生推進交付金 | 能登半島の先端にレジリエントな「知」と「共創」のSDGsプラットフォームづくり | ■能登里山里海マイスター育成プログラム<br>事業費：20,000千円（実績20,000千円）<br>概要：金沢大学と共同で実施する「能登里山里海マイスター育成プログラム」を更に深化させ、本市が推進するSDGsの理念を取り入れ、豊かな地域資源の土壌である環境の保全、その他地域資源を活かしたソーシャルビジネス等の展開に伴う地域経済の発展、多様なネットワークでつながりを生み出す社会的包摂性の3つの観点も人材養成教育プログラムに盛り込み、経済・社会・環境の三側面を補完するトータル的な人材養成事業を実施<br>実施主体：珠洲市<br>支出方法：負担 | ・人材育成に注力され、事業の展開を期待したい。<br><br>・転入、転出の差が減少しているのは効果の表れです。 | 見直しは不要4 | ・プラットフォームKPIの⑤として、転入者による事業継承の件数を追加してはどうでしょうか。 | | 継続実施する3<br>・起業、創業数をさらに伸ばすには地域金融機関とクラウドファンディングの活用が必要です。ぜひ事業に組み込みましょう。<br><br>期限を設けて実施1 |
| 2 | | | ■能登SDGsラボの設立運営<br>事業費：10,000千円（実績10,000千円）<br>概要：市内の現場サイドに存在する地域課題を解決するためのワンストップ窓口として、地域課題解決のコーディネーション機能と”知”と”共創”のプラットフォーム機能を備えた「能登SDGsラボ」を金沢大学能登学舎内に設置し、ブランチとして位置付けられた連携するステークホルダーと共同で運営<br>実施主体：珠洲市<br>支出方法：負担 | ・珠洲の地域に根ざした食材や料理に関するテーマで持続可能な研究ができると面白い。<br><br>・人材育成やラボの成果は短期間では出ない。中長期にわたる運営ができる体制、負担金集めの方法の検討が必要。 | | | | |